

ファッション領域における大学の地域貢献活動に関する研究 —— 事例と課題について ——

井上 裕之

神戸松蔭女子学院大学人間科学部

Author's E-mail Address: hiroyuki.inoue03@gmail.com

Research on Community Contribution of Universities in the Fashion Field — Cases and Problems —

INOUE Hiroyuki

Faculty of Human Sciences, Kobe Shoin Women's University

Abstract

近年、大学において地域と連携した活動は不可欠なものとなっている。こうした状況はファッション領域においても同様であり、各大学の特色、立地条件、そこにある地域資源に応じた様々な活動がおこなわれている。本稿では特色ある地域貢献活動をおこなう大学の事例を通して、ファッション領域における地域貢献活動の現状と課題を把握することを目的とする。その結果、今後より一層大学と地域が密接に関わることが求められる中で、活動の継続性という点が最も重要な課題であることがわかった。

またこれまで、大学におけるファッション教育は学生の自己表現として衣服制作をおこなうことを主としてきた。しかし近年における地域貢献活動の活発化は、ファッション教育に社会的な視点を与える契機になっていると考える。

In recent years, community contribution has become indispensable in universities. The situation is the same in the fashion field. The university conducts various activities depending on the characteristics and location. In this article, we collected examples of universities that have distinctive community contribution activities. It aims at grasping the present conditions and problems of regional cooperation in the fashion domain. As a result, it was found that the continuity of activities is the most important issue.

In addition, fashion education at universities has mainly focused on producing clothes as students' self-expression. However, the recent increase in community contribution activities is an opportunity

to give a social perspective to fashion education.

キーワード：ファッション、ファッションショー、地域貢献、産学連携、産学官連携

Key Words: Fashion, Fashion Show, Community Contribution, Industry-University Collaboration, Industry-University-government collaboration

1. 緒言

近年、大学において地域と連携した活動は不可欠なものとなっている。その活動においては産学連携、また産官学連携という言葉が多く用いられているように、地域の大学、企業、行政が協力し、大学や地域の特色を活かした様々な活動がおこなわれている。「少子高齢化の進展、産業の国際競争力の低下等、我が国が深刻な課題に直面する中、大学に対する社会の期待は高まっており、教育と研究の質を高めることに加えて、社会への貢献もその役割に位置づけられている。地域への貢献は社会貢献の主要な柱とされており、多数の大学が地域貢献をその主要なミッションとし、取組みを強化しつつある。」(内閣府経済社会総合研究所、2016)とあるように、現在の大学に求められる役割は多岐にわたる。特に地方に位置する大学にとって、こうした役割の変化は顕著である。

1-1 ファッション領域における地域貢献

ファッション領域においても上記の状況は同様である。ファッション領域におけるこれまでの産学連携活動は、アパレルメーカーと協力し、学生がデザイン提案をおこなう即時的なものが多く見られた。しかし現在では、地域の持つ歴史や地場産業などの地域資源を活用しながら、持続的におこなう活動が多く見られるようになった。また、こうした活動を専門学校だけではなく、大学が積極的におこなうようになり、活動報告、研究レポート、論文等も徐々に蓄積されつつある。本稿ではそれらを事例として収集し、ファッション領域における地域貢献活動の現状と課題を把握することを目的とする。

ファッション教育と地域貢献は必ずしも相性がいいものとは言えない。それはファッション教育が学生の自己表現を衣服で具現化することに主眼をおいているからである。地域資源に目を向けることは、ある種の制約ともなりかねない。しかし、現在主流となるファッションデザインを考えると、サステナビリティ、エシカル、インクルーシブ等、様々な社会的視点が必要とされていることがわかる。ファッション教育における地域貢献活動の活発化は、学生にそうした視点を学ぶ機会となることを期待できる。

1-2 神戸松蔭女子学院大学人間科学部ファッション・ハウジングデザイン学科の取り組み

神戸松蔭女子学院大学人間科学部ファッション・ハウジングデザイン学科（以下「本学科」と略す。）でも2018年度の学科改変に伴い、コミュニティをカリキュラム編成の重要なキーワードとした。2年次科目として「地域貢献デザイン演習A、B」、3年次科目として「地域

プロデュース演習 A、B」を設定し、学びの中で地域への貢献を果たすことを目指している。地域貢献デザイン演習では、神戸ファッションウィーク、神戸タータン、神戸ファッション美術館の3クラスを設置し、様々なもの、ことのデザインに取り組んでいる。

2016年度からおこなっている神戸タータンによる衣服制作、ファッションショーの取り組みは、現在では本学科の地域貢献活動の中心的役割を担っている。神戸タータンは2017年に神戸開港150年を迎えたことを記念してデザインされた、神戸をイメージしたタータンである。神戸タータンを管理する神戸タータン協議会には、2019年現在で130社を超える企業、団体が加盟し、300を超えるアイテムが展開されている。神戸市も様々なイベントにおいて神戸タータンを使用し、産官学が一丸となった取り組みへと発展している。本学科では2016年度より神戸タータンを使用した衣装制作を開始し、これまで学外において17回のファッションショーをおこなっている。また、ファッションショー以外にも企業へのデザイン提案、商品化など、様々な広がりを見せている。

今後も継続して上記の活動をおこなっていくにあたり、先行の事例をもとに本学科における地域貢献活動の課題の発見にも繋げたい。

2. 事例の収集

ファッション領域における地域貢献を扱っている活動報告、研究レポート、論文等の情報を取得する手段として、国立情報学研究所の論文検索サイト「Cinii」を利用した。検索ワードとして「地域貢献 ファッション」、「産学連携 ファッション」、「産官学連携 ファッション」、「地域貢献 服飾」、「産学連携 服飾」、「産官学連携 服飾」を設定した。これらの検索ワードでヒットしたのは35件であった。その中で本文の閲覧が可能なものに加え、継続していると予想される研究については個別で検索をおこない、計29件の文献を収集した。

これらに記載されている活動内容は複合的なものが多く、詳細な分類をおこなうことは難しいが、イベント企画・運営、商品開発、ファッションショー、衣装制作等のキーワードを設定し、各文献の取り組みについて整理した。(表1)

これら文献から現在のファッション領域における地域貢献活動の手法を整理すると、イベント企画・運営12件、ファッションショー12件、衣装制作10件、商品開発8件、国際交流7件、ワークショップ4件、展示物等のアート制作3件、テキスタイル制作2件、映像制作2件、商品コーディネート1件、提案で留まった商品提案1件、図案提案1件、ゆるキャラ1件であった。またそうした活動を教育面から考察した教育効果2件、教育プログラムの構築が1件であった。

ファッション領域における地域貢献として、衣服制作、それを用いたファッションショーが多く求められていることがわかった。ファッションショーや展示、ワークショップ等を複合的におこなう、イベント自体を企画から携わるケースが多いこともわかった。

また、著者の所属大学をみても、東京の大学がひとつもなく、こうした地域貢献活動が、地方に位置する大学が、その地域の地場産業や地域資源を用いておこなわれていることがほとんどであるとわかる。

表1 文献一覧

取り組みの内容	タイトル	大学	著者	発刊年
国際交流、イベント企画・運営 ファッションショー	異文化交流とファッションデザインに関する産学連携による実証的研究 - 山口文化発信ショップの活動およびヘルシンキ芸術デザイン大学と山口県立大学の交流事例を通じて -	山口県立大学 山口県立大学大学院	水谷由美子ら	2003
イベント企画・運営	ファッションと産学共同 - 「ジャパンファッションデザインコンテスト IN 山口」実施の事例研究	山口県立大学 山口県立大学大学院	水谷由美子ら	2004
イベント企画・運営、ワーク ショップ	産民公学連携によるファッション文化の発信と地域文化の創造 -第21回国民文化祭・やまぐち2006 ファッションフェスティバルの実証的研究-	山口県立大学 山口県立大学大学院	水谷由美子ら	2007
イベント企画・運営、商品開発 商品販売、アート制作	山口市における産学連携によるアートがある街の創造 - 「アグリ・アート・ツーリズム」の実証的研究 -	山口県立大学 山口県立大学大学院	水谷由美子ら	2008
国際交流、イベント企画・運営 アート制作、商品開発 ファッションショー、衣装制作	地域資源を発掘・創造・発信する実証的研究 - 山口とファッション・まちづくり・国際交流 -	山口県立大学 山口県立大学大学院	水谷由美子ら	2009
イベント企画・運営、ワーク ショップ 商品開発、商品販売 ファッションショー、衣装制作	地域資源を生かしたまちづくり - ファッションとアートによる実証的研究 -	山口県立大学 山口県立大学大学院	水谷由美子ら	2010
国際交流、イベント企画・運営 ファッションショー、衣装制作	服飾デザインと国際アートマネジメントの実証的研究 -地域資源を活用したクリスマスファッションショーを事例として	山口県立大学 山口県立大学大学院	水谷由美子ら	2011
国際交流、イベント企画・運営 商品開発	地域資源を活かした豊かな生活文化の想像をめざして 2 - 山口における地域プロデュースのための商品開発研究 -	山口県立大学 山口県立大学大学院	水谷由美子ら	2013
商品開発、イベント企画・運営 ファッションショー、衣装制作	地域資源を活かした農ガールファッションの商品開発とサービスデザイン - アグリアート・フェスティバル 2014 「大地の心をきく」を事例として -	山口県立大学 山口県立大学大学院	水谷由美子ら	2015
国際交流、イベント企画・運営 商品開発、ファッションショー、 衣装制作	文化創造と持続可能性 - 地域資源と服飾デザインによる実証的研究 -	山口県立大学 山口県立大学大学院	水谷由美子ら	2018
イベント企画・運営、ファッショ ンショー 商品コーディネート	岐阜地域に於けるアパレル産業の活性化と大学の地域貢献 ファッションショー「GIFUを着る」の実施を通じて	岐阜市立女子短期大学	伊藤陽子ら	2003
ユニバーサルデザイン、商品開発 ワークショップ、ファッション ショー 衣装制作	even art project を通した社会連携と教育的効果の研究 -6年の活動を道じて-	神戸芸術工科大学	見寺貞子ら	2010
ユニバーサルデザイン ワークショップ、アイテム制作	障害者施設と大学の連携による地域に共創を誘発するアートプロジェクトの研究 -コラボシヨール 露津を身にまとう-	神戸芸術工科大学	谷口文保ら	2016
国際交流、教育プログラム テキスタイル制作	国際連携による地域産業を活かしたシームレスなデザイン教育プログラムの開発研究	神戸芸術工科大学	小北光浩ら	2016
衣装制作、アイテム制作 アート制作	博多織プロモーション計画 2 -地域産業振興と人材育成のための芸術系教育プログラム-	九州産業大学	井上友子ら	2010
商品開発	博多織プロモーション計画 3 (3) -地域産業とデザイン領域の連携による社会貢献の可能性の検討	九州産業大学	青木幹太ら	2011
アート制作、テキスタイル制作 商品提案	博多織プロモーション計画 3 (1) : 地域産業と芸術領域の連携による社会貢献の試み	九州産業大学	佐藤佳代ら	2011
提案提案	博多織プロモーション計画 3 (2) : 地域産業と芸術領域の連携による社会貢献の可能性の検討	九州産業大学	井上友子ら	2011
映像制作	博多織プロモーション計画 3 (4) : 伝統産業を基礎とした映像コンテンツの構築と社会意識変革の考察	九州産業大学	星野光可ら	2011
教育プログラム	博多織プロモーション計画 4 (1) : 地域産業を目標に定めた領域横断型活動について	九州産業大学	佐藤佳代ら	2012
商品開発	博多織プロモーション計画 4 (2) : 地域振興を目標とした商品開発事例と産学連携の可能性	九州産業大学	井上友子ら	2012
映像制作	博多織プロモーション計画 4 (3) : 伝統産業を基礎とした映像コンテンツの構築と新たなアーカイブの考察	九州産業大学	星野光可ら	2012
衣装提案、衣装制作 ファッションショー、ゆるキャラ	短大生によるファッションビジネスプロジェクトマネジメント ② 「NAGOYA KAWAII!!!」ファッションショー参加報告	愛知学泉短期大学	長谷川えり子	2015
商品開発、教育効果	短大生によるファッションビジネスプロジェクトマネジメント ③ -産学連携によるアクセサリーの商品開発-	愛知学泉短期大学	長谷川えり子	2019
商品開発	産学連携によるメカデザインプログラム 福井県のメガメーカーと大学生の協働によるデザインプロジェクトの成果	大阪樟蔭女子大学	森優子ら	2017
ファッションショー、衣装制作	神戸タータンが繰る大学と地域	神戸松蔭女子学院大学	井上裕之ら	2019
ファッションショー 衣装制作、教育効果	神戸タータンのファッションショーを用いた地域連携活動における学生の満足度と社会人基礎力	神戸松蔭女子学院大学	徳山幸子ら	2019

3. 事例と考察

今回より具体的な考察をおこなうために、特色的な取り組みとして、2つの大学の事例をみていく。

ひとつは、1999年から現在まで、他大学と比べ長期的な活動をおこなっている、山口県立大学の水谷らによる論考、二つ目は、福祉施設との協働という他大学にはない取り組みをおこなう、神戸芸術工科大学の見寺らによる論考についてである。

3-1 山口県立大学の取り組み

山口県立大学の水谷ら（2003、2004、2007、2008、2009、2010、2011、2013、2015、2018）は2003年から2018年まで、地域貢献、産官学連携による取り組みについて、計10本の論文としてまとめている。その取り組みは多岐にわたるが、一貫して山口の地域資源を活かした活動をおこなっている。山口県立大学は大学院を設置しており、より高度な地域貢献を可能としているが、2003年から15年以上に渡り、継続して地域に密着した活動をおこなっている事例は他に見られなかった。

活動の概要としては、1999年に山口県、山口市、山口商工会議所、山口繊維加工協同組合、本町商店街組合、山口県立大学大学院による産官学連携事業として山口文化発信ショップ、Naru Naxevaを開始した。ここでは「やまぐちらしいファッションと生活小物を商品開発して、山口から全国及び世界へ発信していこう」（水谷ら、2003）を目的としている。この事業が「大学と地域産業界の密接な関係」（同上）が生まれたと述べている。この活動は2000年の「第1回山口新人ファッションデザインコンテスト」などの事業や、萩の竹や農作業着など様々な地域資源をテーマとしたデザイン提案、ファッションショーをおこなっている。

また、こうした活動をヘルシンキ芸術デザイン大学等とともに、国際交流へと繋げている点も他大学にはみられない特徴であった。これにより、参加する学生たちは山口の地域資源を他国や他地域と比較する視点を持つことができる。地域貢献活動においては対象とする地域という限定的な視点で物事を考えがちであるが、他地域との比較をすることによって得るものもあるのではないか。

そして、山口県立大学の取り組みにおいて特筆すべきは、「文化創造活動としての文化施設や名所旧跡に先鞭をつけ、その結果、他の団体によるイベントが行われるようになった例がいくつかある」（水谷、2018）と述べるように、ファッションショーなどの活動が地域活性化へ繋がったという結果を示せる点である。栄寺雪舟庭や急山口県会議事堂、野田神社能楽堂などがその例として挙げられている。この結果は「地域資源の発見的把握と持続的活用」（内閣府経済社会総合研究所、2016）という大学における地域貢献活動が目指すべきものと合致する。ファッションによる地域貢献活動は、デザイン提案や衣服制作など、とすればもののデザインに目がいきがちであるが、山口県立大学の活動は、ファッションショーの企画、場所の選定により、地域活性化を生むという、ことのデザインまでおこなっている。

水谷は上記の活動の課題として、デザイン提案に取り入れる藍染や手漉き和紙などの山口の伝統的な手工芸について、「継承活動とビジネスのレベルの間に1つの超えるべき一線があ

り、そこをそれぞれの団体がどのように超えるか、あるいは継承活動として1線の手前で活動するかを決断が課題である。」(水谷、2018)と述べている。継続的な産学連携活動をおこなう際には大学側、企業側の両方にメリットを生むことが求められる。この点は商品提案型の産学連携をおこなう際には常に課題となると考える。

3-2 神戸芸術工科大学の取り組み

神戸芸術工科大学は播州織との産学連携活動など、ファッション領域において様々な活動をおこなっているが、ここではeven art projectを中心とした取り組みを事例として取り上げる。

even art projectは2005年に開始された取り組みである。見寺らはeven art projectの5年間の活動を論考としてまとめている(見寺ら、2010)。even art projectの活動はユニバーサルデザインを中心に考えられており、例えば、“みつくすさいだー”と“えびすあーと”では、福祉作業所NPO法人えびすの協力の下、知的障がい者の描く絵を原画とし、学生がデザインとしてアレンジして商品化し、売り上げの一部を原画作者に還元している。また、ちびたんでは、親子でお揃いの服を制作するワークショップをおこなっている。

even art projectではないが、ユニバーサルデザインという視点を同一にしながら谷口らはNPO法人えびすとともに、コラボ・ショールというアートプロジェクトをおこなっている(谷口ら、2013)。えびす利用者と学生がペアとなり、街を散策し、風景を写真に納める。その写真を、ワークショップを通してデザイン化し、ショールとして制作するというプロジェクトである。

神戸芸術工科大学の活動で特徴的であるのは、ユニバーサルデザインという言葉が使われているように、障がいを持つ人々や子供をはじめとする様々な年代の人々と協働し、プロジェクトをおこなっている点である。地域に暮らす様々な人に目を向け、共同制作をおこなう取り組みは、他大学には見られないものである。「eapの活動は、年齢や性別、障害のあるなしを超えたコミュニケーションの場であり、学生の完成やリーダーシップの育成を図る貴重な実践教育の場でもあった」(見寺ら2010)と述べているように、こうした取り組みは学生への教育的価値が高い。現在ファッションデザインでは、ユニバーサルデザインはもちろん、ダイバーシティやインクルーシブデザインといった概念が必須の考え方となりつつある。しかしこうした概念を学生がもつには、大学内での閉じた教育では不十分である。神戸芸術工科大学の取り組みは地域貢献活動を通じて、これからのファッションデザインにおいて必要となる考え方を実践的に学ぶ場ともなっている。

谷口はアートプロジェクトの課題として「地域住民との交流促進や共同制作となるだろう」(谷口ら、2013)と述べている。地域住民との交流の促進は、交流の継続によって行えるものであると考える。

2つの大学の特色的な取り組みについてみてきたが、どちらもが地域社会に存在する問題をファッションやデザインによって解決を図るとりくみであるといえる。また両大学の取り組みにおいて、先鞭的に問題を見つけるという姿勢が共通する点であるといえる。企業や自

治体の依頼に答えるだけでは、これからの地域貢献活動としては不十分かもしれない。

3-3 本学科の取り組みと課題

上述したように本学科では2016年度より継続して、神戸タータンを使用した地域貢献活動をおこなっている。学生による神戸タータンを使用した衣装の制作とそれを用いたファッションショーを軸に、神戸のフットサルクラブであるアルコイリス神戸へのユニフォームデザインの提供や、サントリーへの美麗袋やグラスのデザインの提供などをおこなっている。またこれまで神戸の各地で17回おこなったファッションショーでは、老舗帽子店であるマキシンをはじめ、多くの地元企業の神戸タータンアイテムを使用し、神戸タータンの普及と地域の活性化を図ってきた。

本学科の活動の特徴は神戸タータン使用する点にある。神戸タータンは神戸市内で販売される様々なアイテム、また神戸マラソンや神戸まつりなどの市のイベントに使用されており、徐々に神戸市を象徴するイメージビジュアルとして定着しつつある。そうした神戸タータンで衣装を制作し、ファッションショーをおこなうことは、それだけで神戸のイメージを発信し、街おこしといえる地域貢献活動へと繋がる。また、企業と協働する際にも神戸タータンという共通要素を互いに持っているため、スムーズな連携が可能である。また神戸タータンという共通要素によって、産官学が一体感をもった取り組みをおこなえているということは、他地域にはみられない特徴である。

しかし、そうしたスムーズな連携は、産官学の孤立した取り組みと捉えることもできる。例えば企業と協働し、製品をコーディネートアイテムとして使用したファッションショーでも、学生の衣装製作と製品は、神戸タータンという共通要素しか持たない。山口県立大学、神戸芸術工科大学の事例に見られた大学が地域との密接なコミュニケーションの中で、問題の発見と解決をおこなう取り組みと比べると、その関係性は希薄であり、本学科の今後の取り組みにおける課題と考える。

課題の解決に関しては、山口県立大学の取り組みにおいて、継続が多様な取り組みへと繋がったように、今後も継続した活動をおこなうことが重要である。現在ではファッションショーで協働した企業から、学生にデザイン提案を依頼する例が、少しずつではあるが増えつつある。また本学科の2年次科目である「地域貢献デザイン演習 A、B」では、神戸タータンを題材とするクラスを設定し、企業と協働した製品開発をおこなった。約4年間継続している神戸タータンの活動は、少しずつではあるが取り組みの幅を広げている。それに伴い、地域とのコミュニケーションは密なものになりつつある。その中で徐々に学生が主体的に問題の発見と解決をおこなえる取り組みを考案していくことを目指す。

4. 結論

本稿では、文献として収集できるものを中心に、ファッション領域の大学における地域貢献活動についてみてきた。しかし、今回収集できた論文は29件であり、これは他領域と比べて少ない。また、ほとんどの文献は活動報告に留まるものであり、それらの活動を分析、考

察できているものは少数であった。これはまだファッション領域における地域貢献活動が発展途上の段階であるといえる。様々な大学が試行錯誤を繰り返しながら、活動をおこなっている。

その中で、山口県立大学の活動は、ひとつの成功例であるといえる。15年以上に渡る活動からは、大学が地域に定着している様子が伺え、ひとつの活動がまた次の活動へと繋がっている。またそこに国際交流を組み合わせることで、国際文化学部という学部の個性が浮き上がっている。

神戸芸術工科大学の活動は、ファッションだけでなく、デザイン領域全体が取り組むべき課題を提起していると考えられる。年齢、性別、障がいの有無など、様々な垣根を取り払い交流、協働をおこなう活動は、これからの社会の目指すべき姿ではないだろうか。

また、ファッション領域における地域貢献活動において課題となってくるのは、継続した活動へと繋がられるかどうかという点であるといえる。今回収集した文献を見ても、単発、もしくは数年での活動に留まるものがほとんどである。このことから、大学側が地域へと積極的に出ていき、山口県立大学のように、ある種の定位置を得ることが重要である。またその中で、事例の整理と分析、学生への教育成果を論考としてまとめ、蓄積していくことは、教員の責務であり、今後のファッション領域における地域貢献活動の発展に繋がる。

本学科における地域貢献活動は、神戸タータンの活動が2016年度から、地域貢献デザイン演習での取り組みが2019年度からであり、まだ始まったばかりである。地域資源の発見や、取り組むべき課題の発見という点については、まだ教員から学生に与えるという形に留まっているが、今後継続した活動へと繋げていくことにより、地域社会における大学の役割を果たしていきたい。

文献

青木幹太、井上友子、佐藤佳代、坂本浩、星野浩司、佐藤慈、荒巻大樹「博多織プロモーション計画3(3):地域産業とデザイン領域の連携による社会貢献の可能性の検討」(「日本デザイン学会研究発表大会概要集58」、p.120、2011)

長谷川えり子「短大生によるファッションビジネスプロジェクトマネジメント(2)「NAGOYA KAWAii!!」ファッションショー参加報告」(『愛知学泉大学・短期大学紀要50』、pp.19-24、2015)

長谷川えり子「短大生によるファッションビジネスプロジェクトマネジメント(3)産学連携事業によるアクセサリの商品開発」(『愛知学泉大学紀要1巻2号』、pp.109-113、2019)

星野浩司、井上友子、佐藤佳代、青木幹太、坂本浩、佐藤慈、荒巻大樹「博多織プロモーション計画3(4):伝統産業を基礎とした映像コンテンツの構築と社会意識変化の考察」(「日本デザイン学会研究発表大会概要集58」、p.121、2011)

星野浩司、井上友子、佐藤佳代、青木幹太、荒巻大樹「博多織プロモーション計画4(3):

- 伝統産業を基礎とした映像コンテンツの構築と新たなアーカイブの考察—（「日本デザイン学会研究発表大会概要集 59」、p.202、2012）
- 井上裕之、石田原弘「神戸タータンが結ぶ大学と地域」（神戸松蔭女子学院大学研究紀要人間科学部篇 No.8、pp.13-26、2019）
- 井上友子、佐藤佳代、青木幹太「博多織プロモーション計画 2：地域産業振興と人材育成のための芸術系教育プログラム」（「日本デザイン学会研究発表大会概要集 57」、2010）
- 井上友子、佐藤佳代、青木幹太、坂本浩、星野浩司、佐藤慈、荒巻大樹「博多織プロモーション計画 3（2）：地域産業と美術領域の連携による社会貢献の可能性の検討」（「日本デザイン学会研究発表大会概要集 58」、p.119、2011）
- 井上友子、佐藤佳代、青木幹太、星野浩司、荒巻大樹「博多織プロモーション計画 4（2）：地域振興を目標とした商品開発事例と産学連携の可能性」（「日本デザイン学会研究発表大会概要集 59」、p.201、2012）
- 伊藤陽子、平真由美、久保村里正「岐阜地域に於けるアパレル産業の活性化と大学の地域貢献ファッションショー「GIFUを着る」の実施を通して」（『岐阜市立女子短期大学研究紀要 52』 pp.185-202、2002）
- 小北光浩、野口正孝、金沢香恵「国際連携による地場産業を活かしたシームレスなデザイン教育プログラムの開発研究」（神戸芸術工科大学紀要『芸術工学 2016』、2016、最終アクセス日 2019 年 12 月 10 日）
- 見寺貞子、かわいひろゆき、谷口文保、柊伸江、韓先林「even art project を通じた社会連携と教育的効果の研究 —5 年の活動を通じて—」（神戸芸術工科大学紀要『芸術工学 2010』、2010、https://kobe-du.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=89&item_no=1&page_id=13&block_id=30、最終アクセス日 2019 年 12 月 10 日）
- 水谷由美子、岡部泰民高、島海、山崎忠道、新留直人、ニイニコスキ ノーラ、リンネ ピイア「異文化交流とファッションデザインに関する産学連携による実践的研究：やまぐち文化発信ショップの活動およびヘルシンキ芸術デザイン大学と山口県立大学の交流事例を通じて」（山口県立大学紀要『山口県立大学学術情報 4 巻』 pp.59-80、2003）
- 水谷由美子、岡部泰民、入江幸江「ファッションと産学共同：「ジャパンファッションデザインコンテスト IN 山口」実施の実例研究」（『山口県立大学大学院論集 5 号』 pp.65-86、2004）
- 水谷由美子、井生文隆、松尾量子、田中輝雄、岡部泰民、入江幸江、磯部素男、永富真子、神大樹「産民公学連携によるファッション文化の発信と地域文化の創造：第 21 回国民文化祭・やまぐち 2006 ファッションフェスティバルの実践的研究」（『山口県立大学大学院

論集 8 号』 pp.147-177、2007)

水谷由美子、神大樹、磯部素男、片山涼子、永留靖洋「山口市における産公学連携によるアートがある街の創造:「アグリ・アート・ツーリズム」の実践的研究」(山口県立大学紀要『山口県立大学学術情報 11 巻』 pp.39-50、2008)

水谷由美子、磯部素男、永留靖洋、倉田敏生、西脇末美、岡部隆則、森田聖士、片山涼子「地域資源を発掘・創造・発信する実践的研究:山口とファッション・まちづくり・国際交流」(山口県立大学紀要『山口県立大学学術情報 2 巻』 pp.40-59、2009)

水谷由美子、磯部素男、岡部隆則、森田聖士、岡田奈緒、田村未奈美「地域資源を生かしたまちづくり:ファッションとアートによる実践的研究」(山口県立大学紀要『山口県立大学学術情報 3 巻』 pp.27-48、2010)

水谷由美子、田村未奈美「服飾デザインと国際アートマネジメントの実践的研究:地域資源を活用したクリスマスファッションショーを事例として」(山口県立大学紀要『山口県立大学学術情報 4 巻』 pp.1-27、2011)

水谷由美子、井生文隆、田村洋、松尾量子、小南英昭、山口光、小橋圭介「地域資源を生かした豊かな生活文化の創造をめざして 2:山口における地域プロデュースのための商品開発研究」(山口県立大学紀要『山口県立大学学術情報 6 巻』 pp.99-115、2013)

水谷由美子、甲斐少夜子、小田玲子「地域資源を活かした農ガールファッションの商品開発とサービスデザイン:アグリアート・フェスティバル 2014「大地の心をきく」を事例として」(山口県立大学紀要『山口県立大学学術情報 8 巻』 pp.45-70、2015)

水谷由美子「文化創造と持続可能性:地域資源と服飾デザインによる実践的研究」(山口県立大学紀要『山口県立大学学術情報 11 巻』 pp.47-59、2018)

森優子、小林政司、小永組雄、小永真也「産学連携によるメガネデザインプログラム

福井県のメガネメーカーと大学生の協働によるデザインプロジェクトの成果」(「日本デザイン学会研究発表大会概要集 64」、p.420、2017)

内閣府経済社会総合研究所「大学等の知と人材を活用した持続可能な地方の創生に関する研究会報告書」(研究会報告書等 No.74、2016、http://www.esri.go.jp/jp/prj/hou/hou074/hou74_06.pdf、最終アクセス日 2018 年 12 月 9 日)

佐藤佳代、井上友子、青木幹太、坂本浩、星野浩司、佐藤慈、荒巻大樹「博多織プロモーション計画 3 (1):地域産業と芸術領域の連携による社会貢献の試み」(「日本デザイン学会研究発表大会概要集 58」、p.118、2011)

佐藤佳代、井上友子、青木幹太、星野浩司、荒巻大樹「博多織プロモーション計画 4 (1):一地域貢献を目標に定めた領域横断型活動について」(「日本デザイン学会研究発表大会概要集 59」、p.200、2012)

谷口文保、ばんばまさえ、小越 将吾「障害者福祉施設と大学の連携による地域に共創を誘発するアートプロジェクトの研究 —コラボ・ショール 室津を身にまとう—」(神戸芸術工科大学紀要『芸術工学 2015』、2015、https://kobe-du.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=173&file_id=48&file_no=2 最終アクセス日 2019 年 12 月 10 日)

徳山孝子、石田原弘「神戸タータンのファッションショーを用いた地域連携活動における学生の満足度と社会人基礎力」(神戸松蔭女子学院大学研究紀要人間科学部篇 No.8、pp.47-60、2019)

(受付日 : 2019. 12. 10)